

# DDW-Japan 1999 アンケート調査報告

第7回DDW-Japanは、運営委員の先生方をはじめ多くの方々のご協力のおかげで11,648人の参加者をえて盛会裡に学会を終了することができた。

今回もまた、例年よりアンケート調査を実施したが、学会員の多くの方々から本会開催についてほぼ満足しているとの解答を得、また、DDWそのものについても賛同していただいていることが理解され、心からうれしく思っている。

今回は地方都市開催ということもあり、ホテルの問題、複数の会場の問題など不便な面もあったように見受けられたが、それらは地元担当の会長のお力によってほぼ解消されたものと思っている。地方都市開催には地方都市の伝統と風土が感じられ、参加者の気分を和やかにさせてくれる効果がある、今後もバランスよく中央開催と地方開催を組み合わせる運営することが望ましいように思われる。

問題となるのは、常に参加費が高いとご意見が多く、1日券があってもよいのではないかとご提案もあった。学会運営資金の悪化傾向があり、思うようにならない面もあるが、諸雑費を節約して少しでも参加費の減額に対して努力していきたいと考えている。

DDWは年々参加学会数も多くなり、その運営方式も検討すべき時期にきている。DDW2000より少しずつ改革されていくものと期待している。よりよいDDW-Japanにするために今後ともご意見、ご教示を賜りたく心からお願ひ申し上げる次第である。

DDW-Japan 1999 広報委員長 福富久之

## はじめに

日本消化器関連学会合同会議（DDW-Japan）は今回7年目を迎え、全面参加学会6学会に部分参加学会3学会を加え、1999年10月28日より31日の4日間、広島市の広島国際会議場、アステールプラザ、広島厚生年金会館、広島県立総合体育館の4会場で開催された。

参加人員11,648名と過去最高の記録となり、盛会のうちに終了した。会場が分散しているとか、同時に興味ある演題が重なってそのすべてを聞くことが出来なかったなどという不満もあったが、それぞれは充実した内容であり、実りある学会であったと思っている。

DDW-Japanが合同企画運営という面をとっているため、各学会の独自性が失われてしまうという意見はあるが、あらゆる事象でプラスの面は必ずマイナスの面を伴うもので、総括して評価すれば意義のある大会であったと考えている。「DDWは今後いかにあるべきか」を知るために毎回アンケート調査を実施しているが、今回は578名からの回答が得られたのでその概要を紹介したい。

## 1. 学会参加者の背景因子

アンケートよりみた所属施設の割合は、一般病院が51.4%、大学関係が27.3%、診療所勤務は11.6%であった。ほぼ昨年と同様であるが、若干一般病院の比率が増加しているように思われる（図1a）。参加者の年代は40歳代が35.3%、30歳代が31.1%で最も多く、20歳代は3.3%と前年とほぼ同様の低い値をとっている。50歳代は12.5%の割合を示していた（図1b）。

参加者の所属学会は（複数回答）、多い順に消化器病学会551名、消化器内視鏡学会463名、肝臓病学会210名、消化器外科学会100名、消化器集団検診学会90名、大腸肛門病学会71名、膵臓学会69名、胆道学会62名となっている。

## 2. DDW-Japanの開催地、期間

開催地は従来、神戸・横浜といった大都市で開催されていたが、今回は地方都市広島で開催された。原爆投下地という歴史の重みのある都市でしばしば国際大会が開催されている実績もある。しかし参加者が1万人を越え、学会参加数が増加するに従い、会場の必要度が増加し、今回は主として4会場に分散して実施された。

開催地の選定に関するアンケート調査は、従来通り主要都市での開催がよいとした人は40%、地方都市を含めての開催がよいとした人は48%であった（図2）。横浜・神戸以外の開催希望都市として多い順に列挙すると、札幌、福岡、仙台、名古屋、沖縄、京都、広島、大阪、東京、熊本、金沢、静岡、長崎があげられていた。いずれにしろ大きな会場と宿泊施設が充分ある都市で開くべきだとする意見が最も多かった。

今回の期間は昨年同様4日間とした。開催期間についてのアンケートに対する回答は、4日よりもよいが49.7%、ついで3日が33.4%、3～4日が6.1%となり、過半数が4日よいとしている（図3a）。しかし、この期間中何日出席したかについては2日が36%、3日が35%で4日は12%、1日13%となっている（図3b）。この傾向は前年度のアンケート調査と類似し、今回のほうが若干2日より3日の割合が多くなって

いる。また、診療所勤務の方が大学、一般病院の方々と比較して出席日数が少なくなっている。

今回は木曜から日曜日の4日間開催であったが、曜日に関する設問に対しては土曜を含める方がよい51%、日曜を含めるが31%であり、平日のみがよいとした人は12%であった。

## 3. 参加学会数、参加費に関する意見

今回は消化器病学会、消化器内視鏡学会、肝臓学会、膵臓学会、胆道学会、消化器集団検診学会の6学会が全面参加し、消化器外科学会、消化器外科学会、大腸肛門病学会の3学会が部分参加して開催された。学会費は昨年と同様25,000円（事前登録は20,000円）である。

今回のままでよいは11名にすぎず、高いという回答は15名、全面的な改正改善を望んでいる人は318名であり、多くの会員が何らかの改変を希望していることがわかる（図4）。1日券の設定、身分による減免制度、事前登録と当日の料金の大きな差額の解消、参加学会、出席日数、ポジション等による金額の差別化の必要性などについて意見が出されている。

## 4. 演題並びにその申し込みとインターネットについて

主題数については、現状でよいと回答した人は60%、段階的に数を減らすべき24%、大幅に数を減らすべき8%であった（図5）。評議員などへの登用条件としての機会を与えるためにも増やしたほうがよいとする意見と、毎回同じ内容演者の講演が多い、時間帯が重複して聞けない場合が起きることでも減らしてもよいとする意見もあった。

今回は演題申し込みをインターネット方式に移行させようとする考えから、締切日に差異を設けた。申し込みに際し、所定用紙の使用比率は、インターネット160人、所定用紙66人でインターネットを用いた人が多かった。

使用パソコンはMacintosh 136人、Windows 65人の割合であった。ブラウザはInternet Explorer 98人、Netscape 92人であった。インターネット演題登録システムはどこからアクセスしたかについて、病院・医局142人、自宅38人の割合となり、登録時間帯は日中68人、夜間93人となっていた。これからはインターネット演題登録システムとなる。メニュー選択の簡素化、入力登録の簡素化、図形挿入画面のシンプル化、サーバーの安定化、スプールの改善、採用・不採用確認、ハッカーに対するセキュリティなどが希望としてあげられた。

## 5. 個々のセッションについて

教育講演については、普通が48%、充実・やや充実が26%、合同プログラムについても、普通が55%、充実・やや充実が19%、悪い・やや悪いとするものは数%以下で極めて少なかった。時間帯について、参加したいセッションが重なって不可能であったとする回答が19%あり、この点は常に問題になっていた。全体的に総花的である。基礎的なものと臨床的なものを分けるべきである。同じ臓器はできるだけ合同にするように努力する、等の意見があった。

図1. アンケート回答者

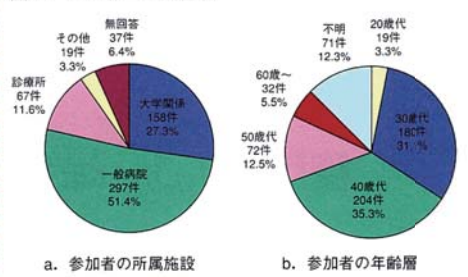


図2. 開催地の選定

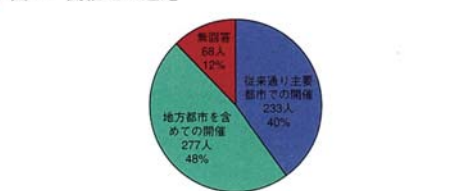


図3. 開催期間について

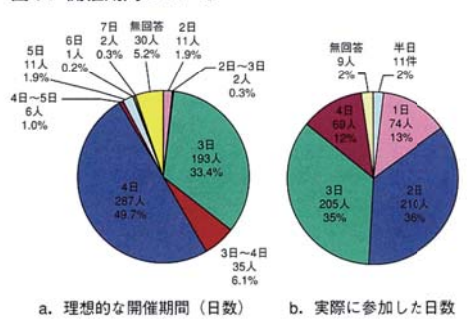


図4. 参加費について（複数回答）

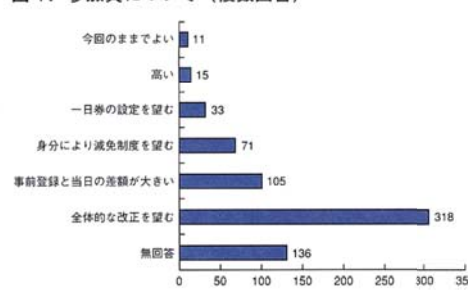
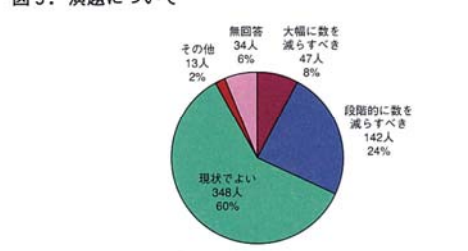


図5. 演題について



## 6. ランチョンセミナーについて

ランチョンセミナーの開催は、学術情報と昼食を兼ねるということで一般化されてきている。その内容について、

図6. 会場及び会場運営全般について

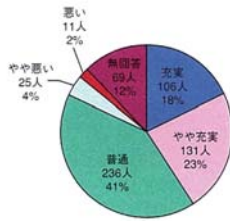


図7. DDW-Japan1999に対する満足度

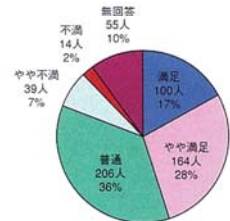
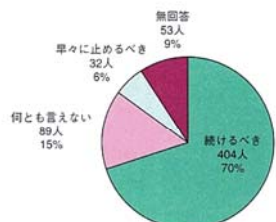


図8. 今後のDDW方式について



普通35%、充実23%、やや充実22%、悪い・やや悪いとしたもの6%となっている。

整理券に関する対応はかなり改善されているように思われる。参加希望者の数に対して会場が狭いとする意見があったが、おおかたは満足されているように思われた。

7. 抄録集のCD-ROM化について

2年前から実施されている抄録集のCD-ROM化についてのアンケート調査では、続けるべきとした人55%、何とも言えない23%で、必要なとした人が11%にみられた。前回と比較して「必要ない」が減少し、「続けるべき」が増加し時代の進歩が感じられる。CD-ROM化の全文検索機

能が役に立ったかに対して、役に立った291人48%、索引は演者のみでよい43人17%、必要ない65人11%であった。しかし、まだ使用していない、使う機会がなかった、とする意見もあり、一部とまどっている人達もいるように思われた。

また、DDWホームページを作って会員に提供している。閲覧したと回答した人は37%、ないとした人は50%、あとは無回答であった。良くできている、さらに内容を充実させてほしいという意見が示されていた。新しい時代に入り、情報伝達の様式が少しずつ変容してきている。この面で一層努力していきたい。

8. 会場および運営全般について

会場運営全般についての評価は、普通41%、やや充実23%、充実18%で悪い・やや悪いは6%であった(図6)。会場分散については、地方都市ではやむを得ないとするものの、悪いとした人が51%、普通が32%、なんともいえないが8%みられた。

会場の表示については、目的の場所へすぐ到着できたとした人が64%、表示がわかりにくく困ったとした人が24%で、シャトルバスの乗り場がわかりにくかったとするものが多かった。

各会場の入場者数に関しては、ちょうどよいが48%、席が不足が12%、空席が多い8%、その他となっている。

また、発表会場の臓器別編成については66%が良いと回答している。

ビジネスセンターについては利用しなかった人が多く、役に立ったと答えた人は14%程度であった。昼食に関しては、特に問題なし44%、食堂はなかなか座れなかったは5%にすぎなかった。弁当売店を充実させてほしいとする意見が多かった。

休憩所については、座れて読んだり書いたりする休憩所が欲しいとの意見があった。

会場までの交通手段としては、学会専用シャトルバス286人、タクシー179人、その他162人となっており、シャトルバスについては不便・時間がかかる、時間通りに来ない、便数が少ないなどの不満がみられ、宿泊についてはホテルが取れない・ホテルが遠すぎるなどの不満が若干認められた。

9. DDW-Japan1999 (Hiroshima) に対する満足度について

今回のDDW-Japanに対する全体の満足度については、満足17%、やや満足28%、普通36%であり、「やや不満」や「不満」と答えた人は9%であった(図7)。これらの回答は1998年と同様で前回不満としたもの14%に対し、今回は9%と幾分満足度が高いように思われた。

分散会場、宿泊状態、交通状態など地方都市の抱える問題が不満につながっているのであろうが、それゆえにまた、地方都市のよき、観光をひかえた充実した時間など、目に

見えぬものが満足度に反映しているものと思われる。

10. 今後のDDW方式について

このDDW方式について続けるべきか否かのアンケートに対し、続けるべきと回答したものは70%、何とも言えない15%、早々に止めるべきとした人は6%であった(図8)。前年度の回答も継続71%、不詳19%、中止10%とほぼ同様な割合である。中止すべきとした意見の根拠として、マンモス化しすぎたこと、参加費が高すぎる、本当に聞きたいセッションが重複して聞けないことなどがあげられている。よしとする意見には、1つの学会では不十分なところを合同学会では全体像を知ることができること、認定医を維持する出席点がまとめて取得できることなどをあげていた。

以上が今回のアンケートの骨子である。

DDW-Japanは、分散化した消化器関連学会をひとつにまとめることによって、消化器病学会全体の学問診療の問題点を共通の場で討議し、学び、さらなる進歩発展をめざすことがその設立の原点にある。そうしてまた、統合によって経済的負担を軽減し、効率化をはかり、無駄を廃してこうとする役割もある。今後とも各学会の独自性を尊重しながら、会員から愛されるすばらしいDDWを育てあげていきたい。

関係諸氏のご支援とご指導、ご協力を心からお願い申し上げる次第である。

全面参加

- 第30回 日本脾臓学会大会  
会長：加嶋 敬 (京都府立医科大学第3内科)
- 第41回 日本消化器病学会大会  
会長：梶山 梧朗 (広島大学第1内科)
- 第3回 日本肝臓学会大会  
会長：西岡 幹夫 (香川医科大学第3内科)
- 第37回 日本消化器集団検診学会秋季大会  
会長：福富 久之 (茨城県総合健診協会)
- 第35回 日本胆道学会総会  
会長：船曳 孝彦 (藤田保健衛生大学外科)
- 第58回 日本消化器内視鏡学会総会  
会長：八尾 恒良 (福岡大学筑紫病院消化器科)

部分参加

- 日本大腸肛門病学会  
会長：岩垂 純一 (社会保険中央総合病院大腸肛門病センター)
- 日本消化器外科学会  
会長：小川 道雄 (熊本大学第2外科)
- 日本消化吸収学会  
会長：馬場 忠雄 (滋賀医科大学第2内科)